

[話題提供] 高圧線鉄塔で営巣したカワウの繁殖抑制対策

[要約] 高圧線鉄塔で繁殖を行っているカワウに対し、レーザー光線の照射やロケット花火による対策を行ったところ、孵化雛数をゼロに抑制する事が出来た。

[担当] 山梨県水産技術センター・増殖スタッフ・加地弘一

[分類] 技術・参考

[課題の要請元] 山梨県漁業協同組合連合会

[背景・ねらい]

令和3年度のカワウ繁殖は中央市乙黒地先の高圧線鉄塔で行われたため、高圧線鉄塔での繁殖状況の確認と繁殖抑制手法の検討を行った。

[成果の内容・特徴]

1. 令和3年3月18日に中央市乙黒地先の高圧線鉄塔2本でカワウ15羽、3巣を確認した(図1)。個体数は4月26日に最大137羽、営巣数は5月12日に22巣であった(図2)。
2. 鉄塔に駐鳥または営巣しているカワウに対し、日没後に鉄塔から100mほどの距離からレーザー光線(緑色)を照射する対策を合計32日間実施した。
3. レーザー光線を照射した瞬間ほぼすべてのカワウが鉄塔から飛び去った。一部飛び立たなかった個体も、直接照射することでほぼ全てが除去可能であった。
4. レーザー光線による対策の翌日は対策前に比べて個体数が減少しており、レーザー光線照射の防除効果が確認された(表1)。
5. レーザー光線による対策の結果カワウは周辺の鉄塔計8本に拡散して営巣したが、それぞれの鉄塔で対策を継続することで鉄塔への飛来数は徐々に減少した。また、全て営巣放棄され孵化雛は1羽も確認されなかった。

[成果の活用上の留意点]

1. 対策により繁殖地が拡散しないよう注意する必要がある。
2. 鉄塔での対策は暫定的に行ったものであり、本来の繁殖地である下曽根コロニーで繁殖を再開させるための対策が必要である。

[期待される効果]

卵のドライアイス処理や擬卵への置き換えによる繁殖抑制が行えない場所でのねぐら除去や繁殖抑制手法としてレーザー光線の照射は有効である。

[具体的データ]



図1 調査位置図

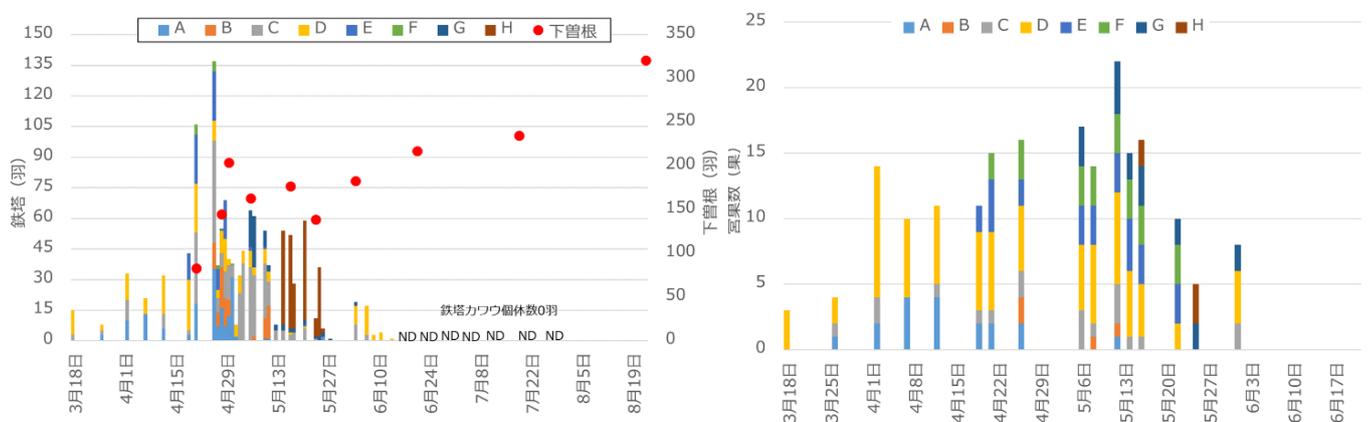


図2 鉄塔と下曽根コロニーのカワウ個体数（左）と営巣数（右）の経日変化

表1 レーザー光線の照射による対策前後の鉄塔のカワウ羽数

	対策前 (羽)	対策後 (羽)	対策翌日 (羽)
鉄塔A	35	0	7
鉄塔B	13	0	7
鉄塔C	50	0	7
鉄塔D	10	0	4
鉄塔E	24	0	10
鉄塔F	5	1	2
合計	137	1	37



[その他]

研究課題名：魚食性鳥類対策の効率化

予算区分：県単

研究期間：2020年度～2023年度

研究担当者：加地弘一、谷沢弘将